

多摩市部活動地域連携・地域移行に関するアンケート調査（地域団体等向け）実施結果

1 趣旨

本アンケート調査は、多摩市立中学校における部活動の地域連携・地域移行に向けた検討の参考とするため、地域で文化芸術・スポーツ活動を行う団体等に対し、現在の実態や今後の取り組みなどに対する考えなどを把握するため、行ったものである。

本調査結果は、部活動の地域連携・地域移行に係る、ガイドライン策定や今後の取り組みを進めるための資料として活用する。

2 実施期間

令和6年11月22日（金）～令和7年1月5日（日）

3 対象

市内で活動する文化団体及びスポーツ団体

4 実施方法

（1）インターネット手続き（LoGoフォーム）

（2）アンケート調査票を下記の施設へ設置

（設置施設：市役所本庁舎、市民活動・交流センター、総合体育館、武道館、
アクアブルー多摩）

5 主な周知方法

（1）多摩市公式ホームページ、公共施設予約システムトップページ

（2）たま広報12月20日号掲載

（3）公共施設におけるアンケート周知チラシ掲出

（4）文化およびスポーツ団体へのメールや文書送付等による周知

（5）学校開放利用団体、学校跡地利用団体、公民館利用者へのチラシ配付

6 回答結果

文化団体23団体及びスポーツ団体111団体からの回答があり、合わせて134団体からの回答を得られた。

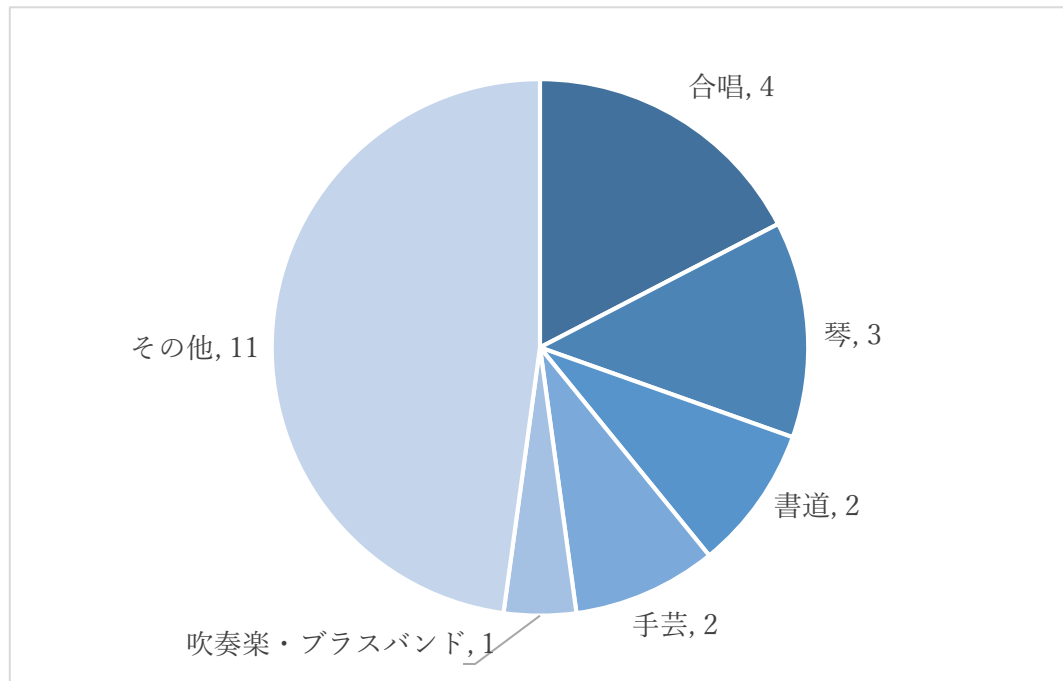
7 文化・スポーツ団体別の結果

（1）別紙【アンケート結果分析（文化団体）】を参照

（2）別紙【アンケート結果分析（スポーツ団体）】を参照

I 全体概要

(I) 活動内容

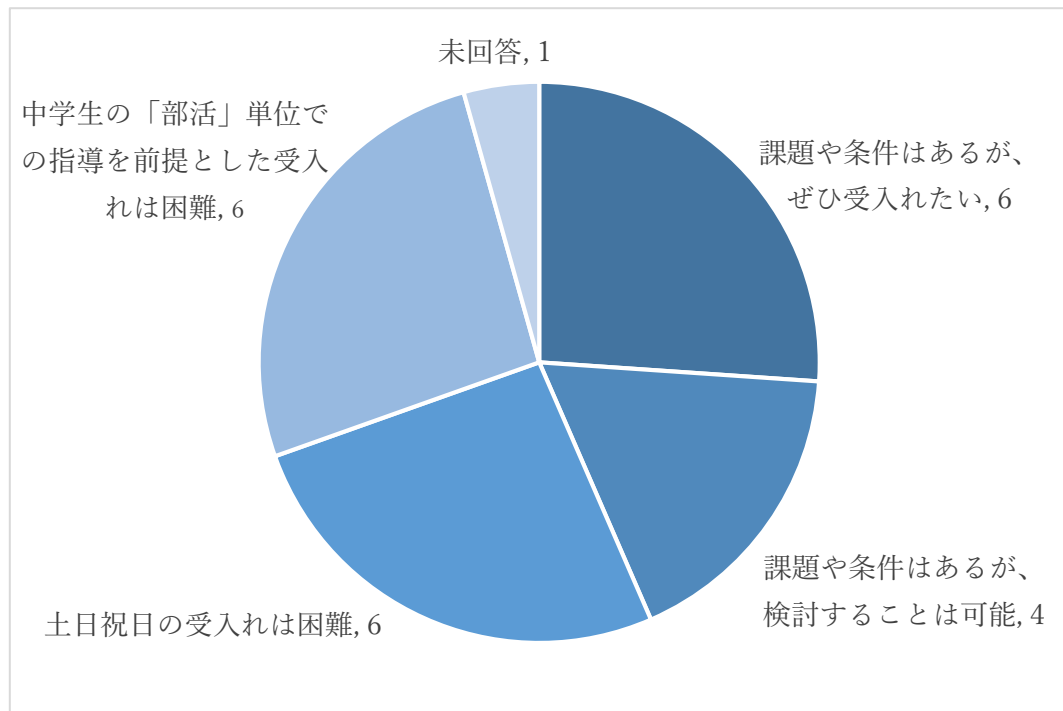


【その他の団体内訳】

工芸、文芸、料理、茶道、囲碁、ジャズ・ボサノバ バンド、
邦楽(箏、三絃、尺八)の合奏、中国語の学習、伝統芸・かっぽれ、カルチャースクール、
デイサービスで高齢者の合唱の伴奏

※上記回答団体において、「保険料が会費に含まれている団体」および「部活動と関わって取り組みを行っている団体」は、なかった。

(2) 土日祝日における「部活」単位での受入れ可否に関する回答結果



【肯定回答団体の内訳】

①課題や条件はあるが、ぜひ受入れたい(全6団体)

琴 3団体

書道、伝統芸・かっぱれ、カルチャースクール 各1団体

②課題や条件はあるが、検討することは可能(全4団体)

合唱、文芸、吹奏楽・ブラスバンド、囲碁 各1団体

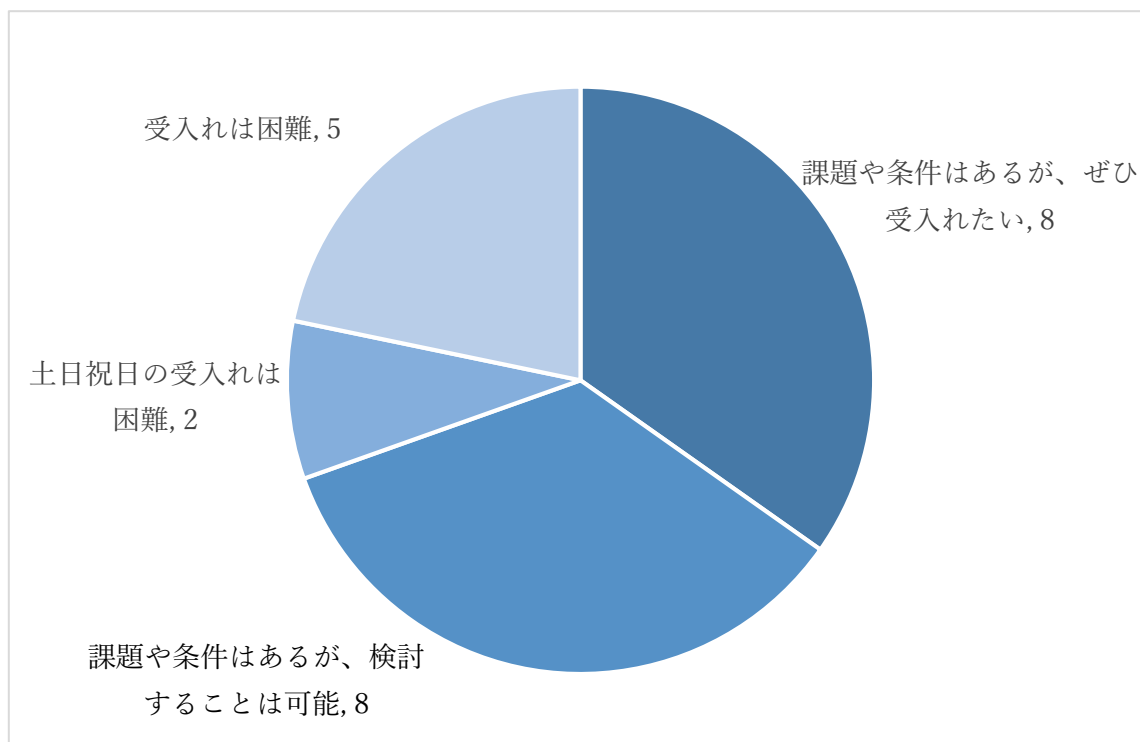
<分析>

土日祝日における「部活」の受け入れに肯定的な回答と否定的な回答を比べると、若干否定的な回答の数が上回っているが、半数近い団体から受け入れに肯定的な回答が得られた。

<課題(自由記述)の概要>

- ・楽器の運搬が課題
- ・土日に集まることは困難。日曜日の夜間の活動のため、帰りの時間が遅くなる。
- ・指導員の高齢化(平均約82歳)のため、人によって意欲が異なる。
- ・部活を「おけいこ事」として受入れるのであれば、土日に関心を持っている先生方はいる。
- ・月謝を払って、長期的に関心をしていくという形でなければ受入れは難しい。
- ・会場や講師料(土日拘束される為)の確保。
- ・問題が起きた時の責任所在の明確化。
- ・土日祝日以外に指導している主顧問との連携。生徒の成長の中で適切な指導ができるか。
- ・練習日および休み等の連絡(LINE等を一斉連絡手段として使用することが必要)。

(3)「部活」単位ではなく「生徒個人」の受入れ可否に関する回答結果



【肯定回答団体の内訳】

①課題や条件はあるが、ぜひ受入れたい(全8団体)

琴 3団体

合唱、工芸、囲碁、伝統芸・かっぽれ、カルチャースクール 各1団体

②課題や条件はあるが、検討することは可能(全8団体)

書道、吹奏楽・ブラスバンド、手芸、文芸、料理、中国語の学習、茶道、邦楽(箏、三絃、尺八)の合奏 各1団体

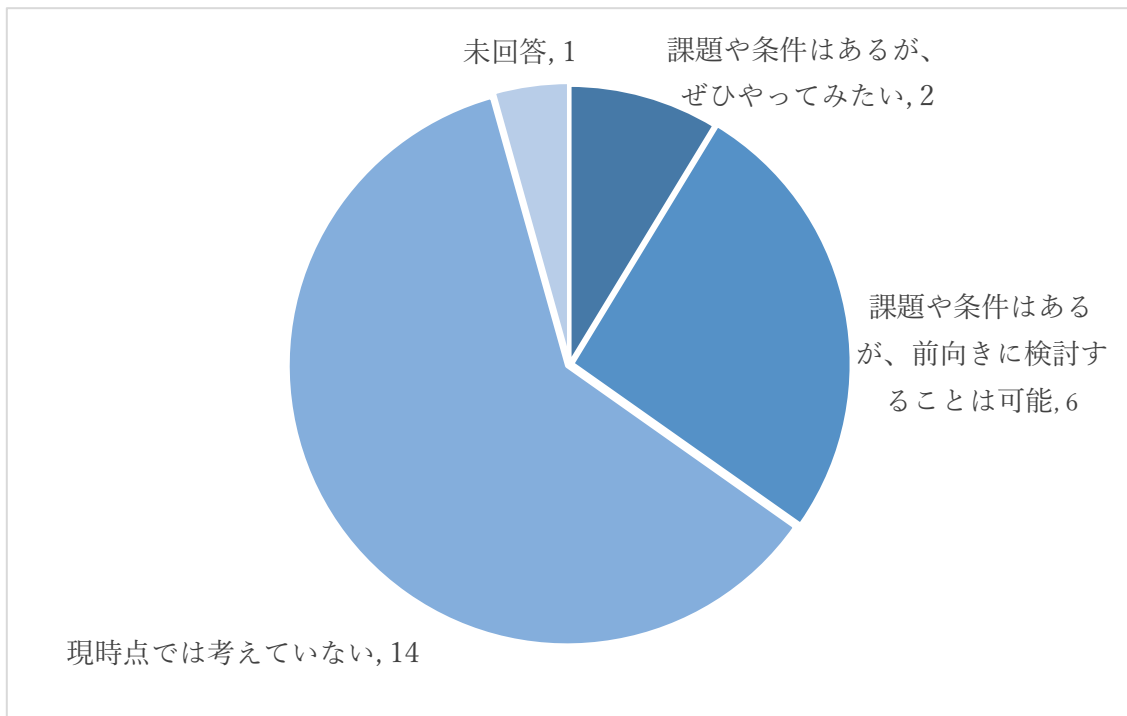
<分析>

- ・土日祝日における「生徒」の受け入れに肯定的な回答をした団体が全体の約7割を占めた。
- ・「部活」としての受け入れに比べると肯定的な回答をする団体が2割程度増加しており、個人・単位の方が受入れしやすいことが推察される。

<課題(自由記述)の概要>

- ・活動場所・タイミング、活動条件のマッチング。
- ・練習場所の確保、かつ、人数が一定数、集める必要がある。
- ・衣装や用具代、会費、謝礼。
- ・学校との連携が必要ならばその時間と費用。
- ・楽器の運搬が困難なことと、人員不足。
- ・習い事の延長であれば、受け入れしやすい。

(4) モデル事業への参加意向



【肯定回答団体の内訳】

①課題や条件はあるが、ぜひやってみたい(全2団体)

伝統芸・かっぽれ、カルチャースクール 各1団体

②課題や条件はあるが、検討することは可能(全6団体)

琴 3団体

書道、吹奏楽・ブラスバンド、文芸 各1団体

<分析>

- ・モデル事業の受け入れについて、約4割程度の団体から肯定的な回答を得られた。
受け入れに関する調査結果と比較して否定的な回答が多い。
- ・モデル事業詳細が示されていない状況もあり、肯定回答に至るにはハードルがあったと考えられる。

<課題・懸念点(自由記述)の概要>

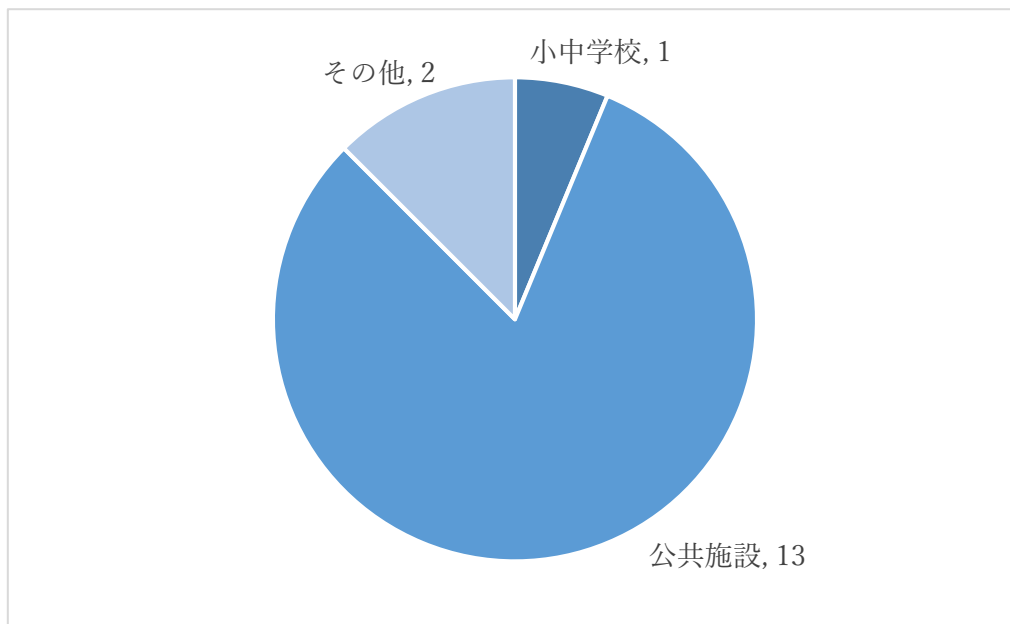
- ・全体像や具体案がわからないので、回答できない。
- ・特に考えてない。当団体は自由に個人参加可能である。
- ・演奏を教えることは難しいが、一緒に演奏することは可能。

(5) 今後、市から連絡をしてもよいと回答した団体

23団体中16団体から肯定回答が得られた。

2 肯定団体(16 団体)の分析

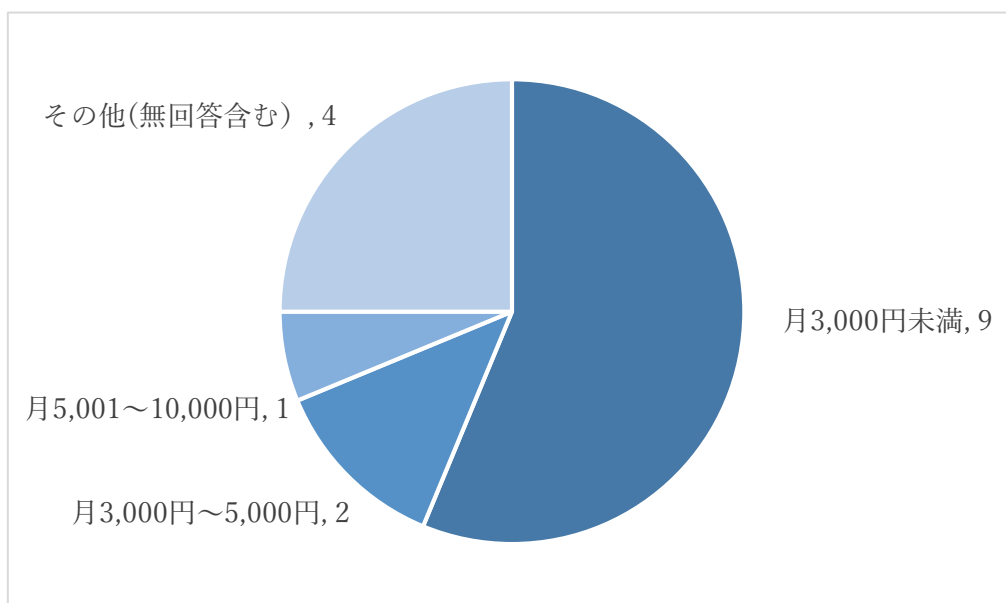
(1) 活動場所



<分析>

公共施設での活動が大半であった。団体の活動場所での受入れが基本となる
ことが想定され、移動に関する課題が発生することが想定される。

(2) 月会費

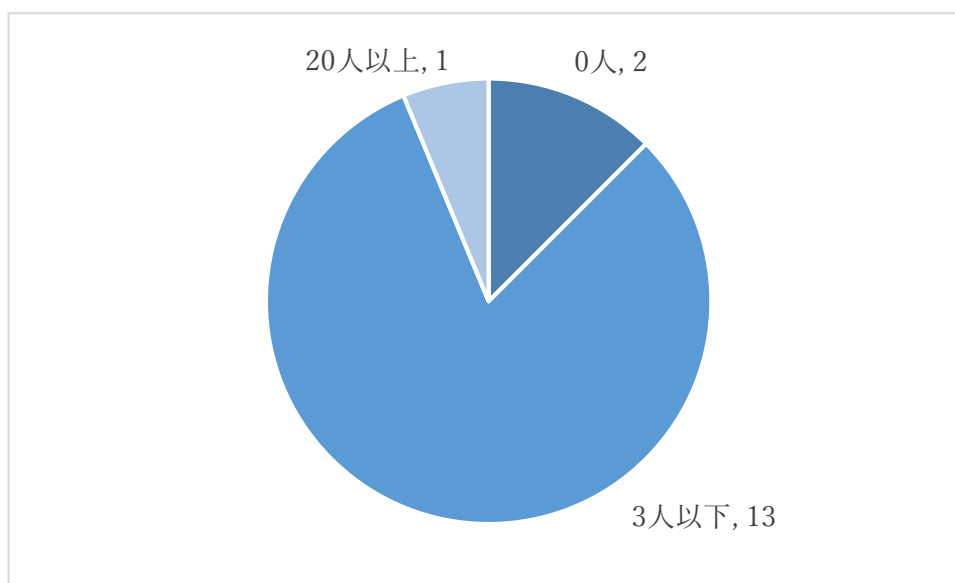


※年会費の団体については、月割して算出

<分析>

- ・月3,000円未満が半数以上を占めている。
- ・ただし、別途、衣装・道具代が必要となる活動もある。
- ・会費以外にかかる費用を情報提供する配慮が必要となる。

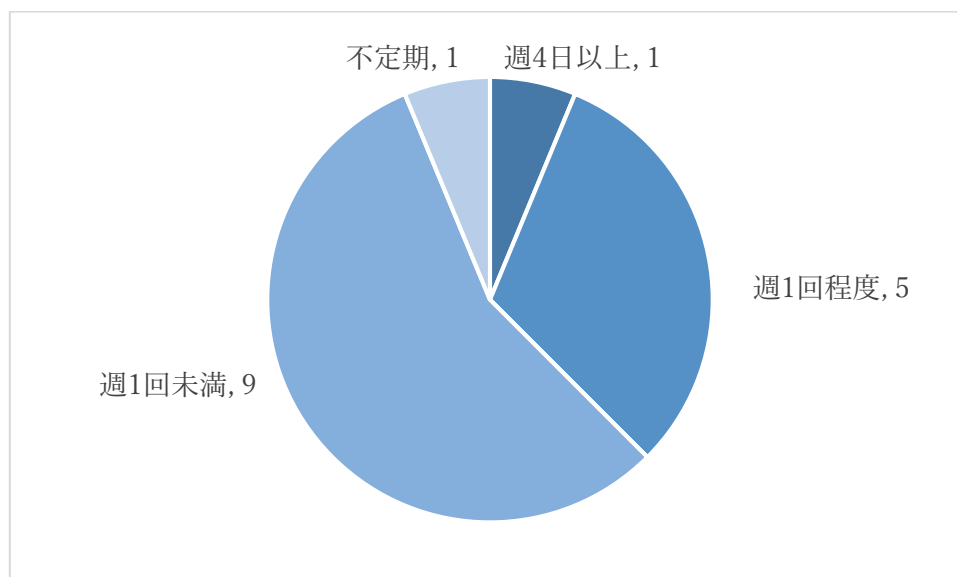
(3) 指導者の人数



<分析>

- ・指導者の人数が限られている団体が大半を占めている。
- ・3人以下の13団体のうち、1人と回答した団体は**12団体**。
- ・団体活動時間中に指導できる生徒人数の上限が発生すると思われる。

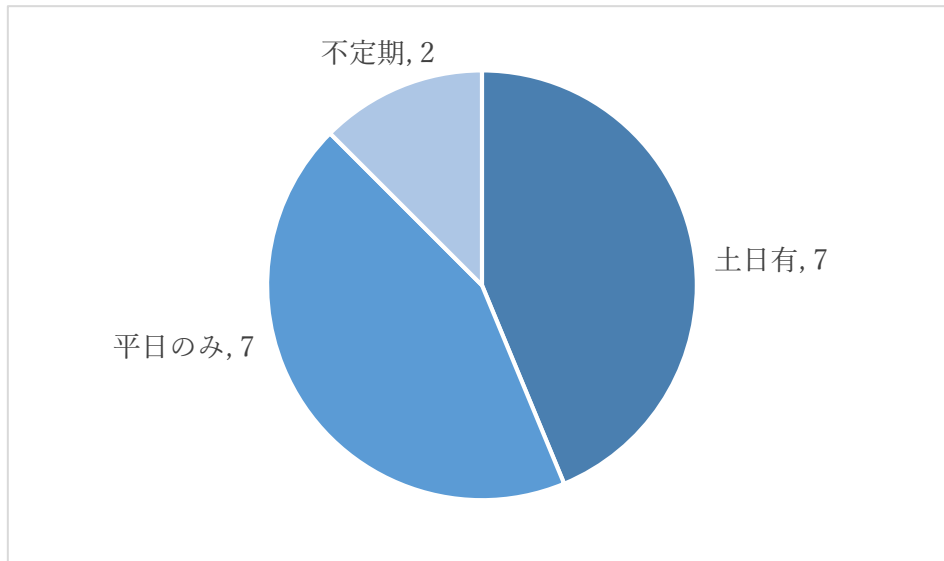
(4) 活動の頻度



<分析>

- ・週1回未満の団体が半数以上を占めている。
- ・次いで週1回程度で活動する団体が多い。

(5) 活動している曜日の状況



※アンケート記載内容で土日の活動の有無が明確でなかった回答は不定期で集計

＜分析＞

- ・「土日有」と「平日のみ」が半々という結果となった。
- ・「平日のみ」の団体については、土日での受入れにあたっての活動パターン変更が課題。

3 地域移行・地域連携についての課題などについて意見概要

〈制度設計等に関する意見〉

- ・出来る限り協力するが、必要性等がまだ理解できない。
- ・書道や美術などの文化系では流派が存在する。書道や美術、音楽に関する学校教育と流派との間で問題が起こるかもしれない。地域の指導者が指導者の流派で土日に教えてしまうとトラブルが起こるのではないか。
- ・学生がコンクールなどへ出品する場合、地域指導者側にその理解を持ってもらう必要がある。
- ・学校部活指導経験者から連携を進めていかないと問題ばかりが多く出てしまい、連携や移行は難しいという結果になりかねないのではないか。

〈子どものための意見〉

- ・教育を考えた上での地域移行や連携ができるかどうかが課題。生徒の成長のためという意識も必要ではないか。
- ・芸術文化には子どもたちが気軽に集うキッカケをつくり、心の豊かさを育み、生きる活力を与える力がある。こうした芸術文化の力を活用し、当団体では、団地商店街にて子どもたちの居場所づくりを行っている。地域のアーティストやクリエイターと協働したワークショップやこども食堂を行い、遊びスペースなどとしても利用できる「こども広場」を開設し、集会所や商店街の他店舗とも連携し、支援の輪を地域に広げている。一人でも多くの子どもたちを支援できるよう取り組みたい。

〈地域移行が困難であるとの意見〉

- ・夜間の活動団体が、生徒と一緒に行動するのは難しいのではないか。
- ・単発の、体験会などであれば協力できる。部活指導は、会員も高齢化しているので厳しい。